

教科	科目	単位数	学年	集団
商業	ビジネス基礎	3	2	ビジネス系列

使用教科書	副教材等
ビジネス基礎（東京法令出版株式会社）	—

科目の目標

商業の味方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人としてひつような基礎的な資質・能力を育成することを目指す。
 (1) ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
 (2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解している。また、ビジネスに関連する技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力が養われている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

評価方法

評価の観点により総合的に評価する。

- ①知識・技能…定期テスト、小テスト、ノート、授業プリントなどに基づき評価する。
- ②思考・判断・表現…定期テスト、課題、ノート、授業プリントなどに基づき評価する。
- ③主体的に学習に取り組む態度…授業への取り組み、出席状況、提出物などに基づき評価する。

学習計画

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	商業の学習とビジネス	商業学習の重要性	商業を学ぶ重要性や身につけたい力などについて学ぶ。	◎	○	○
5	●中間テスト	ビジネスの役割	ビジネスと企業の社会的責任、発展と諸活動について学ぶ。	○	◎	○
6		ビジネスの動向と課題	経済環境の変化とビジネスについて学ぶ。	◎	○	○
6		ビジネスに対する心構え	理解を深め、知識を広くつなぎ合わせることができるようにする。	◎	○	○
6	●期末テスト	信頼関係の構築	信頼関係構築の意義、ビジネスマナー、ホスピタリティなどについて学ぶ。	○	◎	○
7		良好な人間関係とコミュニケーション	良好な人間関係、企業内外のコミュニケーションについて学ぶ。	○	◎	○
7		情報の入手と活用	情報収集の方法、留意点を学び、情報の分析、伝達、保管について学ぶ。	◎	○	○
9	●期末テスト	理解を深め、知識を広くつなぎ合わせることができるようにする。	◎	○	○	
9	経済と流通	経済の基本概念	経済生活のしくみ、市場と価格について学ぶ。	◎	○	○
9	●中間テスト	流通の意義と役割	流通の成立と発展、重要性、担当者、種類、経路といった一連の関係を学ぶ。	◎	○	○
10		ビジネスの諸活動	様々な業態のビジネス活動について学ぶ。	◎	○	○
10		企業活動	企業の形態と組織	経営理念、出資、組織などについて学ぶ。	◎	○
10	●中間テスト	企業のマーケティング活動	マーケティングの重要性や流れについて学ぶ。	◎	○	○
11		理解を深め、知識を広くつなぎ合わせることができるようにする。	○	◎	○	
11		資金の管理と調達	資金の管理、資金調達のしくみについて学ぶ。	◎	○	○
11	身近な地域のビジネス	財務諸表の役割	財務諸表の目的と役割、内容と読み方について学ぶ	◎	○	○
12		身近な地域の課題	身近な地域のビジネスや課題について学ぶ。	◎	○	○
12		身近な地域のビジネスの動向	身近な地域のビジネスの動向、振興について学ぶ。	◎	○	○
12	●期末テスト	ビジネス情報とデータベース	表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの違いについて学ぶ。	◎	○	○
1		理解を深め、知識を広くつなぎ合わせることができるようにする。	○	◎	○	
1		取引とビジネス計算	売買取引の方法	売買の契約、条件、締結と履行などについて学ぶ。	◎	○
1	●中間テスト	代金決済の方法	通貨、小切手、その他の支払手段、新たな決済手段について学ぶ。	◎	○	○
2		電子商取引と代金決済	電子商取引のしくみと分類、代金決済について学ぶ。	◎	○	○
2		計算用具の歴史	計算用具の歴史、そろばんの歴史について学ぶ。	◎	○	○
2	●期末テスト	ビジネス計算の方法	様々なビジネスに関する計算方法を学ぶ。	○	◎	○
3		理解を深め、知識を広くつなぎ合わせることができるようにする。	◎	○	○	
3	●学年末テスト			◎	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
商業	簿記	4	2	ビジネス系列

使用教科書	副教材等
新簿記（実教出版株式会社）	完全段階式 標準検定 簿記問題集（東京法令出版株式会社）

<p>科目の目標</p> <p>商業の味方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>(3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	企業における取引の記録・計算・整理に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、仕訳や転記、決算など基本的な仕組みについて理解することができる。
② 思考・判断・表現	企業における取引の記録・計算・整理に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技能をかつようして適切に判断でき、財務諸表を作成することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	企業における取引の記録・計算・整理について関心を持ち、その基礎的・基本的な知識と技術の習得を目指して主体的に学習に取り組むことができる。

評価方法
<p>評価の観点により総合的に評価する。</p> <p>①知識・技能…定期テスト、小テスト、ノート、授業プリントなどに基づき評価する。</p> <p>②思考・判断・表現…定期テスト、課題、ノート、授業プリントなどに基づき評価する。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度…授業への取り組み、出席状況、提出物などに基づき評価する。</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	簿記の基礎	簿記の基礎	簿記の意味、目的、種類、歴史などを理解する。	◎	○	○
		資産・負債・純資産	資産、負債、純資産を理解する。	◎	○	○
		貸借対照表	資本等式を理解し、貸借対照表を作成する。	○	◎	○
		収益・費用	収益、費用を理解する。	◎	○	○
		損益計算書	損益法を理解し、損益計算書を作成する。	○	◎	○
5	●中間試験		理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	○	○
		取引と勘定	取引発生と勘定科目、貸借平均の原理を理解する。	◎	○	○
		仕訳と転記	仕訳を理解し、記帳方法を学ぶ。	○	◎	○
		仕訳帳と総勘定元帳	仕訳帳および総勘定元帳の記帳方法を学ぶ。	◎	○	○
6	●期末試験	試算表	転記確認のため試算表を作成する。	○	◎	○
			理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	○	○
		決算	会計期末の一連の手続きを学ぶ。	◎	○	○
7	●期末試験	精算表	6桁精算表を作成する。	○	◎	○
		現金・預金の記帳	現金、当座預金、その他の預金、小口現金について学ぶ。	◎	○	○
8	取引の記帳	商品売買の記帳	分記法および3分法について理解し、各種帳簿について学ぶ。	◎	○	○
			理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	○	○
9	●中間試験	掛け取引の記帳	売掛金、買掛金、貸し倒れについて学ぶ。	◎	○	○
		固定資産	固定資産の取得、売却について学ぶ。	◎	○	○
10	決算	決算整理	決算整理について学ぶ。	◎	○	○
		商品に関する整理	売上原価の計算について学ぶ。	◎	○	○
		貸し倒れの見積もり	貸し倒れについて学ぶ。	◎	○	○
		固定資産の減価償却	減価償却について学ぶ。	◎	○	○
11	●期末試験		理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	○	○
		棚卸表	棚卸表について学ぶ。	◎	○	○
12	●期末試験	8桁精算表	決算整理事項を踏まえ、8桁精算表を作成する。	○	◎	○
		帳簿決算	決算整理事項を踏まえ、各種帳簿を作成する。	○	◎	○
1	●学年末試験	会計帳簿	決算整理事項を踏まえ、貸借対照表、損益計算書を作成する。	○	◎	○
			理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
商業	情報処理	3	2	ビジネス系列

使用教科書	副教材等
最新 情報処理 (実教出版株式会社)	

<p>科目の目標</p> <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な脂質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

<p>評価方法</p> <p>評価の観点により総合的に評価する。</p> <p>① 知識・技能…定期テスト、小テスト、ノート、授業プリントなどに基づき評価する。</p> <p>② 思考・判断・表現…定期テスト、課題、ノート、授業プリントなどに基づき評価する。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度…授業への取り組み、出席状況、提出物などに基づき評価する。</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	企業活動と情報処理	情報処理の重要性 情報モラルの法規 情報デザイン	情報処理の重要性について理解する。	◎	○	○
5			情報モラルの法規について理解する。	○	◎	○
	●中間試験		情報デザインの重要性や影響、効果について理解する。	○	◎	○
6			理解を深め、体系的な学習を進める。	○	◎	○
	コンピュータシステムと情報通信ネットワーク	コンピュータシステムの概要 情報通信ネットワークの仕組み インターネットの活用	ハードウェア、ソフトウェアについて理解する。	○	◎	○
			情報通信ネットワークの役割や構成について理解する。	○	◎	○
	情報の集計と分析	情報セキュリティの確保 ビジネスと統計 関数を利用した表作成	Webページの検索や活用について理解する。	○	◎	○
7			セキュリティ管理の重要性について理解する。	○	◎	○
	●期末試験		表計算ソフトウェアの活用や統計の基礎について学ぶ。	◎	○	○
9			データ入力と計算式の設定、基本的な関数について学ぶ。	◎	○	○
	●中間試験	グラフ作成 情報の整列・検索・抽出 問題発見と解決方法	理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	◎	○
10			グラフの種類と概要、作成と活用について学ぶ。	◎	○	○
	ビジネス文書の作成	データベース機能について学ぶ。	問題発見と解決のプロセスについて学ぶ。	○	◎	○
11			理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	◎	○
	●期末試験	ビジネス文書と表現 基本文書の作成 応用文書の作成	ビジネス文書の役割と構成について学ぶ。	○	◎	○
12			ワープロソフトウェアの活用し、基本文書の作成を学ぶ。	◎	○	○
1	プレゼンテーション	プレゼンテーション技法 ビジネスにおけるプレゼンテーション	表計算やグラフを含んだ文書などの作成を学ぶ。	◎	○	○
2			理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	◎	○
3	●学年末試験		プレゼンテーションの意義や基礎について学ぶ。	◎	○	○
			目的別、形式別などによるプレゼンテーションの種類について学ぶ。	◎	○	◎
			プレゼンテーションソフトウェアの活用について学ぶ。	◎	○	◎
			理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	○	◎

教科	科目	単位数	学年	集団
商業	マーケティング	2	2,3	自由選択A・G群

使用教科書	副教材等
マーケティング (実教出版株式会社)	—

<p>科目の目標</p> <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	マーケティングに関する基本的な知識と技術を身に付け、経済社会におけるマーケティングの意義や役割を理解し、効果的な実践に役立てることができる。
② 思考・判断・表現	マーケティングの諸問題を経済生活との関連から適切に把握し、自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	マーケティングの意義や役割について関心を持ち、課題とその解決策の探求を目指し、自ら進んで調べたり質問したりしながら意欲的に学習に取り組んでいる。

評価方法
<p>評価の観点により総合的に評価する。</p> <p>①知識・技能…定期テスト、小テスト、ノート、授業プリントなどにに基づき評価する。</p> <p>②思考・判断・表現…定期テスト、課題、ノート、授業プリントなどにに基づき評価する。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度…授業への取り組み、出席状況、提出物などにに基づき評価する。</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	マーケティングの概要	マーケティングの歴史と発展	マーケティングの歴史的発展などについて学ぶ。	◎	○	○
5	●中間試験	現代の市場とマーケティング	優れたマーケティングの条件などについて学ぶ。	◎	○	○
5		マーケティング環境の分析	SWOT分析、内部環境分析、外部環境分析について学ぶ。	◎	○	○
6	消費者行動の理解	マーケティング・マネジメント	マーケティング・マネジメントの重要性、プロセスについて学ぶ。	◎	○	○
6		理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	○	○	
7	市場調査	消費者の心理と行動の関係	問題解決のための購買、消費者の心理と購買意思決定について学ぶ。	◎	○	○
		購買意思決定過程	問題認識、情報探索、代替品評価、商品選択、購買後行動について学ぶ。	◎	○	○
7	●期末試験	消費者行動に影響を与える原因	動機付け、態度、関与、消費者間の影響について学ぶ。	◎	○	○
		市場調査の概要	市場調査の概要と種類について学ぶ。	○	◎	○
9	STP	市場調査・仮説検証の手順	予備調査、本調査、調査対象の選定について学ぶ。	○	◎	○
		実態調査の方法	定性調査、定量調査について学ぶ。	◎	◎	○
9	製品政策	理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	○	○	
		セグメンテーション	セグメンテーションの概要と有効な条件などについて学ぶ。	○	◎	○
10	●中間試験	ターゲティング	ターゲティングの概要と意義や注意点について学ぶ。	○	◎	○
		ポジショニング	ポジショニングの概要とマップ作成などについて学ぶ。	◎	◎	○
10	価格政策	製品政策の概要	目的、便益、製品の分類について学ぶ。	◎	○	○
		新製品開発	製品ミックス、新製品開発の方針とプロセスについて学ぶ。	◎	○	○
11	●期末試験	販売計画と生産計画	立案、予測、需要測定、売上高予測、生産計画の流れについて学ぶ。	◎	○	○
		製品政策の動向	ブランド、共同開発について学ぶ。	◎	○	○
11	チャンネル政策	理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	○	○	
		価格政策の概要	価格政策の目的や種類、消費者にとっての価格について学ぶ。	○	◎	○
12	●期末試験	価格の設定方法	コスト、競争、消費者心理、新製品導入時などの価格設定について学ぶ。	○	◎	○
		価格政策の動向	価格設定、キャッシュレス決済の新展開について学ぶ。	○	◎	○
12	プロモーション政策	チャンネル政策の概要	直接流通と間接流通、その機能について学ぶ。	◎	○	○
		チャンネル政策の選択と管理	チャンネルの長さや取引回数、選択、管理について学ぶ。	◎	○	○
1	マーケティングのひろがり	チャンネル政策の動向	ICT、製販連携、インターネット通販の進展について学ぶ。	◎	○	○
		理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	○	○	
2	●学年末試験	プロモーション政策の概要	具体的なプロモーション、消費者の反応について学ぶ。	◎	○	○
		プロモーションの種類	広告、公法、セールス・プロモーション、販売員活動などについて学ぶ。	◎	○	○
2	●学年末試験	プロモーション政策の動向	メディアの変化、技術進化、規制と倫理について学ぶ。	◎	○	○
		さまざまなマーケティング戦略	製品ライフサイクル別の戦略、市場地位別の戦略について学ぶ。	◎	○	○
3	●学年末試験	サービス・マーケティング	定義と特性、エンカウンターについて学ぶ。	◎	○	○
		小売マーケティング	出店、仕入計画、陳列、在庫管理について学ぶ。	◎	○	○
3	●学年末試験	観光地マーケティング	観光地マーケティングの概要と課題について学ぶ。	◎	○	○
		グローバル・マーケティング	文化と消費者行動、海外市場における戦略について学ぶ。	◎	○	○
3	●学年末試験	ソーシャル・マーケティング	非営利組織マーケティング、社会的責任マーケティングについて学ぶ。	◎	○	○
		理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	○	○	

教科	科目	単位数	学年	集団
商業	情報処理	2	3	自由選択F群

使用教科書	副教材等
最新 情報処理 (実教出版株式会社)	

<p>科目の目標</p> <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な脂質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

<p>評価方法</p> <p>評価の観点により総合的に評価する。</p> <p>① 知識・技能…定期テスト、小テスト、ノート、授業プリントなどに基づき評価する。</p> <p>② 思考・判断・表現…定期テスト、課題、ノート、授業プリントなどに基づき評価する。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度…授業への取り組み、出席状況、提出物などに基づき評価する。</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	企業活動と情報処理	情報処理の重要性 情報モラルの法規 情報デザイン	情報処理の重要性について理解する。	◎	○	○
5			情報モラルの法規について理解する。	○	◎	○
	●中間試験		情報デザインの重要性や影響、効果について理解する。	○	◎	○
6			理解を深め、体系的な学習を進める。	○	◎	○
	コンピュータシステムと情報通信ネットワーク	コンピュータシステムの概要 情報通信ネットワークの仕組み インターネットの活用	ハードウェア、ソフトウェアについて理解する。	○	◎	○
			情報通信ネットワークの役割や構成について理解する。	○	◎	○
	情報の集計と分析	情報セキュリティの確保 ビジネスと統計 関数を利用した表作成	Webページの検索や活用について理解する。	○	◎	○
7			セキュリティ管理の重要性について理解する。	○	◎	○
	●期末試験		表計算ソフトウェアの活用や統計の基礎について学ぶ。	◎	○	○
9			データ入力と計算式の設定、基本的な関数について学ぶ。	◎	○	○
	●中間試験	グラフ作成 情報の整列・検索・抽出 問題発見と解決方法	理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	◎	○
10			グラフの種類と概要、作成と活用について学ぶ。	◎	○	○
	ビジネス文書の作成	データベース機能について学ぶ。	問題発見と解決のプロセスについて学ぶ。	○	◎	○
11			理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	◎	○
	●期末試験	ビジネス文書と表現 基本文書の作成 応用文書の作成	ビジネス文書の役割と構成について学ぶ。	○	◎	○
12			ワープロソフトウェアの活用し、基本文書の作成を学ぶ。	◎	○	○
1	プレゼンテーション	表計算やグラフを含んだ文書などの作成を学ぶ。	理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	◎	○
2			プレゼンテーションの意義や基礎について学ぶ。	◎	○	○
	●学年末試験	プレゼンテーション技法 ビジネスにおけるプレゼンテーション	目的別、形式別などによるプレゼンテーションの種類について学ぶ。	◎	○	◎
3			プレゼンテーションソフトウェアの活用について学ぶ。	◎	○	◎
			理解を深め、体系的な学習を進める。	◎	○	◎

教科	科目	単位数	学年	集団
商業	ネットワーク活用	2	3	自由選択C群

使用教科書	副教材等
ネットワーク活用（東京法令出版）	なし

科目の目標
 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価方法
 ①知識・技能 定期テスト、小テストに基づき評価する。
 ②思考・判断・表現 定期テスト、小テストに基づき評価する。
 ③主体的に学習に取り組む態度 授業の振り返り、課題の提出状況などに基づいて評価する。

学習計画

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	情報技術の進歩とビジネス	ビジネスの変化	情報技術の進歩によりビジネスの形態が変化しており、情報通信ネットワークを活用することの重要性について学習する。	○	◎	○
5	インターネットと情報セキュリティ	情報通信ネットワークの活用と課題	インターネットの仕組みとビジネスでの活用方法やソフトウェアの種類と機能、インターネットに接続する方法を学習する。	○	◎	○
6	情報コンテンツの制作	コンテンツのデジタル化とファイル形式	図形や静止画、動画や音声を活用する基本を学習する。	◎	○	○
7		コンテンツの準備	図形や静止画、動画や音声を取得、作成、編集する方法を学習する。	◎	○	○
		情報の統合	ビジネスにおいてインターネットを活用する際の情報セキュリティの確保について学習する。	○	○	◎
9	インターネットの活用	ウェブページ制作の手順	ウェブページをに対する要求を分析し、企画を立案して制作する手順と方法を学習する。	◎	○	○
10		デザインの基礎	ウェブページにおける必要な配色、構成、フォントの選択などの技法及び閲覧しやすいウェブページの工夫について学習する。	◎	○	○
11		ウェブページ制作の基礎	ウェブページへのアクセス数を増加させるための工夫及びアクセス解析のための技法について学習する。	○	◎	○
		ネットワーク機器の種類と機能	ウェブページを扱うための機器や種類と機能について学習する。	◎	○	○
12		ハードウェアとソフトウェアの導入	ウェブページを扱うためのハードウェア、ソフトウェアの導入方法について学習する。	◎	○	○
		ウェブページの公開	商品や企業情報を発信するウェブページの制作について実習を行う。	◎	○	○
1		電子商取引のしくみ	電子商取引及び電子決済の仕組みと活用の重要性について学習する。	○	○	◎
		企業間取引と企業、消費者間取引	情報技術の進歩、顧客のニーズなどを捉え、インターネットを活用した新たなビジネスモデルとその実現の方法について学習する。	○	○	◎
2		電子決済のしくみと方法	電子決済のしくみを理解し利用する方法について学習する。	○	◎	○
		電子商取引システムの作成	電子商取引システムを顧客の立場に立って、操作しやすいものを作成する方法を学習する。	○	◎	○

教科	科目	単位数	学年	集団
商業	課題研究	4(2,2)	3	ビジネス系列

使用教科書	副教材等
なし	なし

<p>科目の目標</p> <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 商業の各分野について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	商業の各分野の学習で身に付けた知識と技術について、実務に即して深化・総合化を図り、課題の解決に生かすことができる知識と技術を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、深化・総合化された知識、技術などを活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	商業の各分野の学習で身に付けた専門的な知識、技術などの深化・総合化など課題を解決する力の向上を目指して自ら学ぶ態度、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わって課題の解決を図り、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組む態度を養う。
評価方法	
① 知識・技能	個人による課題解決に向けたレポート、発表用スライド等
② 思考・判断・表現	個人またはグループによる課題解決に向けた活動、プレゼンテーション等
③ 主体的に学習に取り組む態度	授業や課題解決に向けた取り組み、出席状況等

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	・生徒の興味・関心、進路希望等に応じて、これまで学んできた学習成果により下記のグループの中から個人で適切な課題を設定し、課題解決に向けて取り組む。 ①簿記上級グループ ②資格取得グループ ③調査・研究グループ		・個人による課題を設定し、その目標に対して主体的に取り組むことができる。	◎	○	◎
5	<①、②グループ> ・個人での課題設定 ・資格取得に向けた学習活動		・個人またはグループによる課題を設定し、その目標に対して主体的に取り組むことができる。			
6						
7						
8						
9	<③グループ> ・グループ編成 ・グループでの課題設定			◎	○	◎
10	・アンケートの作成 ・夏季休業中のアンケート活動					
11						
12						
1	・系列発表会の実施 ・製本作業 ・まとめ		・個人またはグループによる課題を設定し、その目標に対して主体的に取り組むことができたか。 ・反省、まとめ			○ ◎ ○
2						
3						

教科	科目	単位数	学年	集団
商業	総合実践	4	3	ビジネス系列

使用教科書	副教材等
なし	なし

科目の目標
 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	商業の各分野について実務に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	ビジネスの実務における課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	ビジネスの実務に対応する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価方法
 ①知識・技能 取引に関する書類の作成状況に基づき評価する。
 ②思考・判断・表現 売買取引における数量、価格等の交渉内容に基づき評価する。
 ③主体的に学習に取り組む態度 授業の振り返り、課題の提出状況などに基づいて評価する。

学習計画

月	单元名	使用教科書項目	单元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	マーケティングに関する実践		マーケティング分野に関連するビジネスの実務に適切に対応し、ビジネスを通じ、経済社会の健全で持続的な発展について、組織の一員としての役割を果たすことについて学習する。	○	○	◎
6 7	マネジメントに関する実践		マネジメント分野に関連するビジネスの実務に適切に対応し、ビジネスを通じ、経済社会の健全で持続的な発展について、組織の一員としての役割を果たすことについて学習する。	◎	○	○
9 10	会計に関する実践		会計分野に関連するビジネスの実務に適切に対応し、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展について、組織の一員としての役割を果たすことができるようになることを学習する。	◎	○	○
11	ビジネス情報に関する実践		ビジネス情報分野に関連するビジネスの実務に適切に対応し、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展について、組織の一員としての役割を果たすことを学習する。	○	◎	○
12 1	分野横断的・総合的な実践		ビジネスの実務に適切に対応し、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展について、組織の一員としての役割を果たすことができるようになることを学習する。	○	○	◎

教科	科目	単位数	学年	集団
商業	ソフトウェア活用	4	3	自由選択B群

使用教科書	副教材等
ソフトウェア活用（実教出版）	

科目の目標 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価方法	
①知識・技能	定期テスト、小テストに基づき評価する。
②思考・判断・表現	定期テスト、小テストに基づき評価する。
③主体的に学習に取り組む態度	授業の振り返り、課題の提出状況などに基づいて評価する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	企業活動とソフトウェアの活用	ビジネスにおけるソフトウェアの活用	企業活動を正確かつ迅速に行う上でのソフトウェアを活用することの重要性について学習する。	◎	○	○
		ビジネスにおけるソフトウェアの進化	AIの進化とともにライフスタイルに大きな影響があり、未来のためにどのように使うかを学習する。	○	◎	○
		情報通信ネットワークの導入と運用	有線LAN、無線LAN、情報通信ネットワークに用いられるネットワーク機器の機能及び情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について学習する。	○	○	◎
	5	情報資産の保護	情報を扱う施設、コンピュータや記録媒体、アクセス権の設定、暗号化の種類、データのバックアップ、ファイアウォールの活用、ソフトウェアの脆弱性への対応、無停電電源装置の管理をし、情報資産を保護する方法について学習する。	◎	○	○
6	表計算ソフトウェアの活用	表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析	標本を用いて母集団の傾向を推測する基礎的な方法について学習する。	◎	○	○
		表計算ソフトウェアを用いたオペレーション・リサーチ	在庫管理、回帰分析を用いた売上予測及び日程管理の方法について学習する。	○	◎	○
		手続の自動化	操作を自動化する方法及び一連の手続を起動するメニューを作成する方法について学習する。	○	○	◎
7	データベースソフトウェアの活用	ビジネスとデータベース	ビジネスに関する情報をデータベース化して管理し、活用することの重要性、データウェアハウスとデータマイニングの概要及びデータベースの機能と役割、ロック機能、障害対策について学習する。	◎	○	○
		データベースの作成と操作	データベースを作成する方法、利用者の立場に立ったユーザインタフェースを作成する方法、表の結合・整列・検索・抽出・集計をする方法、情報を目的に応じて適切な報告書として出力する方法について学習する。	○	◎	○
		手続の自動化	操作を自動化する方法及び一連の手続を起動するメニューを作成する方法について学習する。	○	○	◎
		データベースの構造	データ構造、入力規則、制約について学習する。	◎	○	○
		SQLの操作	データベースを操作するときを使うSQL言語について学習する。	○	○	◎
10 11	業務処理用ソフトウェアの活用	グループウェアの活用	業務処理用ソフトウェアの活用に関する知識、技術などを基盤とした業務の効率的な処理について学習する。	◎	○	○
		販売管理ソフトウェアの活用	仕入・販売管理ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について学習する。	○	◎	○
		給与計算ソフトウェアの活用	給与計算ソフトウェアを活用することの利点及び効率的に活用し業務を行う方法について学習する。	○	○	◎
12 1	情報システムの開発	システム開発の基礎	表計算ソフトウェアのプログラミング機能などを活用して簡易な情報システムを開発する方法について学習する。	◎	○	○
		アルゴリズムの基礎	プログラミングの処理手順や流れ図について学習する。	○	◎	○
		情報システムの開発演習	データベースソフトウェアのプログラミング機能などを活用して簡易な情報システムを開発する方法について学習する。	○	○	◎

教科	科目	単位数	学年	集団
商業	ネットワーク管理	2	3	ビジネス系列

使用教科書	副教材等
ネットワーク管理（実教出版）	

科目の目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報資産を共有し保護する環境の提供に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	情報資産を共有し保護する環境の提供について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	情報資産を共有し保護する環境の提供に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、情報資産を共有し保護する環境の提供に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価方法

- ①知識・技能 定期テスト、小テストに基づき評価する。
 ②思考・判断・表現 定期テスト、小テストに基づき評価する。
 ③主体的に学習に取り組む態度 授業の振り返り、課題の提出状況などに基づいて評価する。

学習計画

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	企業活動と情報通信ネットワーク	情報資産の共有の重要性	情報資産を共有することの重要性と、情報通信ネットワークの構築に必要なネットワーク機器の種類と機能及びネットワークインタフェースの種類と特徴について学習する。	◎	○	○
		情報通信ネットワークの形態と通信	LANの接続形態、アクセス制御方式にの種類や特徴及び通信プロトコルの機能について学習する。	○	◎	○
5	ネットワーク機器と周辺機器の種類・機能	情報通信ネットワークの構築に必要なケーブルやネットワーク機器の種類と機能及びネットワークインタフェースの種類と特徴について学習する。	○	○	◎	
6	情報セキュリティ管理	情報セキュリティ管理の目的と重要性	情報セキュリティ管理の目的、情報資産に対する組織的な対策の重要性及び情報セキュリティ上の問題発生時の復旧を図るための事業継続計画の重要性について学習する。	◎	○	○
		人的対策	情報セキュリティ研修の重要性、意識を向上する方策、内部不正や人的ミスによる情報の漏洩を防止する方策について学習する。	○	◎	○
7	技術的対策	アクセス権の設定と管理など、マルウェアへの感染を予防するソフトウェアによる管理方法及び技術的対策の実効性を高める方策について学習する。	○	○	◎	
9	物理的対策	災害や事故、機器の故障、人の入退室の管理など情報セキュリティ上の問題の発生を想定した対策について学習する。	○	○	◎	
10	情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理	情報通信ネットワークの設計方法	情報通信ネットワークに対する要求を分析し、情報通信ネットワークとファイアウォールを設計する方法について学習する。	◎	○	○
11		情報通信ネットワークの構築方法	ネットワーク機器の接続と設定など、インターネットに接続する方法について学習する。	◎	○	○
12		情報通信ネットワークの運用と障害対応	障害対応の方法と原因を特定する方法及びインシデント発生時のサポート体制などサービスサポートについて学習する。	○	◎	○
1		システム監査	監査対象から独立し、客観的立場でシステム監査を行うことの重要性及びシステム監査の流れについて学習する。	○	◎	○

教科	科目	単位数	学年	集団
商業	財務会計Ⅰ	2	3	自由選択D群

使用教科書	副教材等
新財務会計Ⅰ 新訂版 (実教出版)	完全段階式 標準検定簿記問題集 全商1級会計

<p>科目の目標</p> <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。</p> <p>(3) 会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力が養われている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度が養われている。
評価方法	
① 知識・技能：定期試験、小テスト、ノート、授業プリント等	
② 思考・判断・表現：定期試験、課題、ノート、授業プリント等	
③ 主体的に学習に取り組む態度：授業や課題への取り組み、出席状況等	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	財務会計の概要	企業と会計	・企業会計の意味と役割・財務会計の機能・会計準則について理解する。	◎	○	○
		企業会計制度と会計法規	・企業会計制度の意味を明らかにし、会計法規の必要性について理解する。	○	◎	○
		貸借対照表のあらまし 資産の意味・分類・評価	・貸借対照表の意味と役割を理解する。 ・営業循環基準と1年基準の意味および、それらの基準の適用資産について理解する。 ・資産の評価の意味と損益計算との関係・資産の評価基準の種類、内容、特徴等について理解する。	◎	○	○
5	会計処理	流動資産	・資産の分類とその基準・資産の評価基準・棚卸資産の会計処理と期末評価について理解する。	◎	○	○
		固定資産	・有形固定資産の概念と会計処理、無形固定資産の概念と期末評価について理解する。	○	◎	○
6		負債の意味と分類	・負債の意味と分類について、基礎的知識を習得する。	◎	○	○
		流動負債	・流動負債の各項目の内容を正確に習得する。	◎	○	○
		固定負債	・固定負債の各項目の内容を正確に習得する。 ・退職給付の会計処理及び負債性引当金の会計処理について理解する。	◎	○	○
7		純資産の意味と分類	・株式会社の設立時と開業時の会計処理、資本金の増加と減少の会計処理、資本剰余金と利益剰余金の会計処理、自己株式の概念と取得・処分・消却の会計処理及び新株予約権の概念と発行・権利行使の会計処理を理解する。	◎	○	○
		資本金				
		資本剰余金				
		利益剰余金				
		自己株式				
9		役務収益・役務原価	・役務収益・役務原価の意味を理解し、会計処理を習得する。	◎	○	○
		外貨建取引	・外貨建取引の意味を理解し、適切な会計処理を習得する。	◎	○	○
		税効果会計	・税効果会計の意味と役割を理解し、税効果会計を適用した場合の財務諸表の表示について習熟する。	○	○	◎
10	財務諸表の作成	貸借対照表の作成	・棚卸法と誘導法、報告式の貸借対照表の表示区分と作成方法について理解し、資料を基に報告式の貸借対照表を作成することができる。	◎	○	○
		損益計算書のあらまし	・損益計算書の意味と役割や様式に勘定式と報告式があることを理解する	○	◎	○
		損益計算書の意味と基準	・財産法と損益法について理解する。費用収益対応の原則の役割を理解する	○	◎	○
		売上高	・売上高の計上基準と、それらに基づいた会計処理を理解する。	◎	○	○
		売上原価、販売費及び一般管理費	・売上原価の意味と計算方法、販売費及び一般管理費の意味を理解する。	○	◎	○
		営業外費用、営業外収益	・営業外費用・営業外収益の内容を明らかにし、経常損益の概念を理解する	○	○	◎
		特別利益、特別損失	・特別利益・特別損失の意味と内容を明らかにし、それらの会計処理を理解する。	◎	○	○
		損益計算書の作成	・財産法と損益法、報告式の損益計算書の表示区分と作成方法について理解し、資料を基に報告式の損益計算書を作成することができる。	◎	○	○
		その他の財務諸表	・株主資本等変動計算書の意味とその作成方法を理解する。	◎	○	○
		2	財務諸表分析の基礎	財務諸表のディスクロージャー	・企業と利害関係者およびディスクロージャーについて理解する。	○
財務諸表分析	・財務諸表分析の意味・方法を明らかにし、それぞれの計算方法について理解する。	◎		○	○	
3		連結財務諸表のあらまし	・連結財務諸表の意味や目的を明らかにし、概略を理解する。	○	○	◎

教科	科目	単位数	学年	集団
商業	原価計算	2	3	自由選択E群

使用教科書	副教材等
原価計算（実教出版）	完全段階式 標準検定簿記問題集 全商1級原価計算

<p>科目の目標</p> <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>(3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力が養われている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度が養われている。

評価方法	
① 知識・技能	定期試験、小テスト、ノート、授業プリント等
② 思考・判断・表現	定期試験、課題、ノート、授業プリント等
③ 主体的に学習に取り組む態度	授業や課題への取り組み、出席状況等

学習計画						
月	单元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	原価と原価計算	原価と原価計算	・工業簿記は製造業に適用されるものであることを理解する。 ・工業簿記と原価計算の関係を理解する。	◎	○	○
		原価計算のあらまし	・原価要素の性格とその分類について理解する。 ・原価要素の集計のしかたと原価計算表の役割を理解する。	◎	○	○
		工業簿記 -製造業における簿記-	・工業簿記における勘定記入の特徴を理解する。 ・工業簿記に特有な勘定科目とそれぞれの記帳方法を理解する。	◎	○	○
5	原価の費目別計算	材料費の計算	・材料費の分類とその内容を理解する。 ・材料費の仕入れと記帳方法、元帳への転記を理解する。	○	◎	○
		労務費の計算	・労務費の分類とその内容を理解し、賃金の計算と記帳方法を習得する。	◎	○	○
6		経費の計算	・経費の意味とその分類を理解し、消費高の計算と記帳方法を習得する。	◎	○	○
7	原価の部門別計算と製品別計算	個別原価計算	・個別原価計算の仕組みを理解し、原価計算表に記入ができるようにする ・個別原価計算の記帳方法について関心を持ち、意欲的に記帳に取り組む	◎	○	○
		部門別原価計算	・部門費配分表、振替表を作成でき、それぞれに基づく記帳ができる。 ・部門別計算の目的から考え、各部門の役割について表現できる。	○	◎	○
10		総合原価計算	・単純総合原価計算、等級別総合原価計算、組別総合原価計算の仕組みを理解し、作成することができる。 ・生産形態の違いから、原価計算の方法が異なることを理科し、個別原価計算との違いを説明することができる。	◎	○	○
		工程別総合原価計算	・工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解する。 ・工程別計算を行う理由について考え、適切に判断して学習を進められる	○	◎	○
11		総合原価計算におけ減損・仕損じなどの処理	・減損の意味と、それが発生した場合の処理方法について理解し、月末仕掛品原価の計算ができる。	◎	○	○
		内部会計	製品の完成と販売 決算と本社・工場間の取引	・財務諸表の特色を理解し、製造原価報告書の作成をすることができる。 ・工場会計の独立を理解し、記帳ができる。	◎	○
1	標準原価計算	標準原価計算（その1）	・標準原価計算により完成品原価や月末仕掛品原価が計算できる。	◎	○	○
		”（その2）	・原価差異の算出ができ、その結果から差異の原因について適切に分析することができる。	○	◎	○
2	直接原価計算	直接原価計算（その1）	・直接原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。	◎	○	○
		”（その2）	・CVP分析や損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係が理解できている。	○	◎	○
3						